



2023.2.19

ニリンソウ自生地 保護活動情報

赤塚公園ニリンソウを守る会

akatsukanirinso@gmail.com

都立赤塚公園
サービスセンター
03-3938-5715

編集責任：運営サポーター／木村



Since 1982 ニリンソウ保護活動 41 年目
2023 年度は東京都都市公園制度制定 150 周年

赤塚公園ニリンソウを守る会 活動予定

＜ニリンソウ月間前の観察・学習活動＞

3/12(日) 10:00 大門地区観察台集合

＜今年のニリンソウ月間＞3/18(土)～4/16(日)

- ・ニリンソウ観察 Day 2023 4/9(日) 10:00～15:00
- ・大門自生地ニリンソウガイド 月間中の土・日 10:00～
- ・月間中のモニタリング(毎月曜日)は「春の野草観察会」

★「ニリンソウを守る会」は大門地区のニリンソウ自生地などの手入れ活動を行っています。参加者個々人の自主活動の集まりで、誰でも参加できます。

※問合せ：左記赤塚公園サービスセンターへ

ニリンソウシーズン前 最後の手入れ活動 高島高校生徒さん、地域入門講座修了者 総勢 26 名 細かい草の抜き取りを行いました

2/19 はヤエムグラとフラサバソウの抜き取り作業を行いました。

下の写真の左側が抜き取り前、右が抜き取り後の同じ場所の様子ですが、緑色の濃さが抜き取り後は少しだけ浅くなっているだけで、あまり変わらないように見えます。ところが、これが案外重要なのです。(写真提供：中嶋さん)



ヤエムグラ(下左)は伸びると40～60cmの高さになり他の野草を隠してしまい、フラ



サバソウ(下右)は背丈は高くないけれど密集して生えるために、これもここではご遠慮していただく必要があります。いずれも、生長しないうちに抑制します。





地表にびっしり生えた草を抜き取るのは腕力は必要ないけれど、結構骨が折れるもの。園路を通る人が「それ、おひたしにして食べるのですか？」と聞いてくるほどですから、童謡の『緑のそよ風』に出てくる<つまみな摘み>を連想したのかもしれませんが。左の写真の右手前の茶色部分が抜き取ったところで、3月になるとこれだけでも相当違いが出てくるものです。1回だけではだめで、こういう作業を2年、3年続けていると、次第にヤエムグラやフラサバソウが目立たなくなってきました。これらの草も

立派な生き物ですから、根絶するほどに敵視する必要はなく、他の野草とうまく共存してくれるように管理していくわけです。

この日は、近くの高島高校の生徒さん4名、お父さんの活動に付き合ってくれた小学生も参加してくれました。明るく和やかに、ニリンソウシーズン前の手入れ作業を終了しました。



落ち葉の下にはニリンソウの葉が全面展開 今年はきれいに咲いてくれるのか、祈る気持ちで春を待つ



←作業は、人が密集しないように散開して行います。というのは、落ち葉の下にはもうニリンソウの葉がぐんぐん伸びているからです。それを踏みつけると、ニリンソウ



を殺してしまうからです。落ち葉が薄い所、日当たりが良い所ではもう咲き始めています。→

崖の上の開発が進んで、降った雨が地面に浸み込まなくなり自生地の乾燥化が進んでいるのでしょうか、あるいは株が疲れてきたのでしょうか、近年、「まだら咲き」が目立つ自生地です。毎年の手入れ後は「手入れ作業はこれで良かったのだろうか？」とハラハラしながら春を迎えます。